

氏名	福村 愛美
授与した学位	博士
専攻分野の名称	環境学
学位授与番号	博甲第 6270 号
学位授与の日付	2020年 9月25日
学位授与の要件	環境生命科学研究科 環境科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	デザイン提案のための繊維製品及び衣服の感性工学的研究
論文審査委員	教授 木村 邦生 教授 亀島 欣一 教授 木村 幸敬 准教授 山崎 慎一
学位論文内容の要旨	
<p>繊維産業では、グローバル化によって製品の低価格化競争が熾烈化している。このような状況の中で、日本繊維産業としては、時代背景に沿って、より高付加価値で高品質な製品をタイムリーに開発できるかが生き残るために重要となる。そのためには、消費者の潜在ニーズを的確に把握し、繊維製品に反映させることが必要となる。そこで本論文では、繊維製品及び衣服に対する消費者の意識調査により潜在ニーズを明らかにするとともに、調査結果に基づいたデザイン提案を目的とした。</p> <p>第1章では、倉敷帆布を対象とした。倉敷は国産帆布の7割を占める帆布生産地であるが、年々その需要は減少している。そこで、消費者の倉敷帆布に対する認識と価値を明らかにするために、生地や製品に対するイメージ、適した色や柄、ならびに購買行動に関する意識調査を実施した。調査結果から、消費者は倉敷帆布製品に対して、丈夫で高品質であり、シンプルかつカジュアルで自然なイメージを持っていることが分かった。このような正のイメージが購買行動に結びつかない原因の一つに、製品を実際に見たり触れたりしたことがないためにイメージを実感できていない点にあると考えられる。そこで、調査結果に基づいて、いくつかのデザイン提案を行い、製品を試作した。倉敷帆布の丈夫さや品質の良さは、制服などの衣料より鞆やポーチと相性が良いと考えられる。</p> <p>第2章では、介護服を対象とした。日本では高齢化へと急速に社会構造が変化しており、より快適な介護環境を整備することが希求されている。そこで、慢性的な介護士不足の改善に役立つように、介護の現場で必要とされる介護服に対する潜在イメージと要求性能を把握し、改善点を明らかにするために介護施設従事者に対して意識調査を行った。調査結果から、現在の介護服デザインに対する満足度は低く、介護服に求められるイメージは、清潔感があり、肌触りがよくて優れた洗濯耐性であることが明らかになった。また、要求性能は、通気性、速乾性、吸汗性であり、これらの性能を併せ持った生地や織が求められている。その他の機能デザインとして、作業性から胸や脇に収納用ポケットのニーズが強いことが分かり、介護服に求められる潜在ニーズを把握することができた。介護服に関して男女差や年齢によって多少の好みの差は見られたが、必要な機能性などではほとんど違いはなかった。</p> <p>第3章では、着衣性と体型に関する意識を対象とした。昭和60年代と平成20年代女子学生による自身の体型評価に関する調査を行い、理想的な体型に近づけるための着装行動に関する工夫について考察した。女子学生の体型に関する満足度や悩み、ならびに理想とする体型イメージを明らかにすることができた。これらの体型的な不満をカバーし理想に近づけるための衣服デザインや着こなすための工夫を通して、体型に対する意識と着装行動との相関を明らかにし、体型カバーのための衣服デザインを提案した。</p> <p>以上の意識調査から、それぞれの衣服や繊維製品が使用される環境での機能や性能だけではなく、潜在イメージを感性工学的に解析することで、最適なデザインを提案することが可能であり、より高付加価値な衣服や繊維製品を提供することが可能となることが分かった。</p>	

論文審査結果の要旨

繊維産業では、グローバル化によって製品の低価格化競争が熾烈化しており、消費者の潜在ニーズを的確に把握し、繊維製品に反映させることが必要となる。そこで本論文では、繊維製品及び衣服に対する消費者の意識調査により潜在ニーズを明らかにするとともに、調査結果に基づいた最適なデザイン提案を目的としている。

第1章では、岡山の地場産業であり、安価な海外からの輸入製品に押され年々その需要は減少の一途をたどっている倉敷帆布を研究対象にして意識調査とデザイン提案を行っている。消費者と生産者を対象に倉敷帆布に関する生地や製品に対するイメージ、適した色や柄、ならびに購買行動に関する意識調査を実施した結果、倉敷帆布製品に対して丈夫で高品質であり、シンプルかつカジュアルで自然なイメージを持っていることが分かった。イメージの因子分析から購入・使用者は品質の良さを実感していて、未購入・未使用者はイメージで判断していることを明らかにした。このような正のイメージが購買行動に結びつかない原因分析と調査結果に基づいて、いくつかのデザイン提案と製品を試作し、倉敷帆布は、制服などの衣料より鞆やポーチと相性が良いことを明らかにしている。

第2章では、岡山の地場産業である介護ユニフォームを研究対象とした。そこで、慢性的な介護士不足の改善に役立つように、介護の現場で必要とされる介護ユニフォームに対する潜在イメージと要求性能を把握し、改善点を明らかにするための介護施設従事者に意識調査を行った。調査結果から、現在の介護ユニフォームデザインに対する満足度は低く、求められているのは、カジュアルで実用的、シンプルで爽やかなイメージであることを明らかにしている。さらに、要求性能として、通気性、速乾性や吸汗性が重視されていることも示している。機能デザインとしては、作業性から収納用ポケットへのニーズが高いことが分かった。さらに因子分析結果から、介護ユニフォームに関して男女差や年齢差によって多少の好みの違いは見られたが、必要な機能性に大きな相違はないことを明らかにした。

第3章では、体型カバーのための衣服デザイン提案を目的として、感性工学の視点から女性の体型に対する意識と着装行動に関する調査を実施している。調査結果から、よりスリムで美しいプロポーションを望む者が多く、理想の体型に近づけるために、衣服で欠点をカバーする等の様々な配慮をしていることが分かった。身長やバスト、ウエスト、ヒップのサイズと体型に対する悩みの有無や、満足度、着装行動などとの間には高い相関がみられ、自己の体型に対する満足度の判別要因を明らかにしている。

以上の研究成果は、繊維製品の素材や機能だけではなく、潜在意識を感性工学的に解析することで、最適なデザインイメージをより明確にすることができ、素材から感性イメージまでを総合的に把握することで高付加価値な繊維製品を提供することが可能となることを示している。よって、本研究成果は学位に値すると判断した。